

社会政策学会 Newsletter

1998.5.10

No. 17

役員改選があります

今年は役員改選の年です。幹事および監事を新たに選出します。選挙は、6月6日の日大大会の総会の場で行います。出席者だけに投票権があります。会計監事は1名ですが、幹事は地域別に次のような定員があります。関東8人、関西4人、東北・北海道合わせて2人、九州・中四国合わせて2人、計16人が選ばれます。この他、選出された幹事がさらに8名の幹事を選びます（推薦幹事という）。

幹事の任期は2年で4選はできません（推薦幹事は1期のみ）。4選禁止規定は94-96年間に設けられ、その期から任期を数え始めました。今期（96-98年）で2期目です。したがって98-99年間に4選になる人はいません。

また、幹事会の世代交代のための**年齢構成の制限**があります。65歳以上の幹事の割合が、全会員中に占める65歳以上の者の比率を超えてはいけません。1933年6月以降に出生の会員は685名（5月10日現在）ですから、65歳以上比率は34.5%です。従って65歳以上の幹事は8名までとなります。

投票は7名連記です。名誉会員を除く被選挙人の名簿を別刷りで同封しますので参考にして下さい。

今大会での会費徴収は致しません

6月の日大大会では会費の徴収を行わないことにします。会費は同封の振替用紙で払い込んで下さい。ご不便かと存じますが、事務簡素化のため、ご協力をお願いします。

年報は従来通り大会会場で受け取れます。会場で受け取り票に氏名と所属を記入の上、お受け取り下さい。会費が未納であっても年報は受け取れます（ただし、最新号のみです）。滞納分の年報は、入金を確認してから発送します。

会費納入のお願い

4月1日より新会計年度に入りました。同封の振替用紙で納入して下さい。6月の大会会場では徴収しません。

院生会員は6千円です。請求金額が間違っていたら訂正して納入して下さい。ただし、院生会員は院生である旨を必ず、通信欄にお書き下さい。

すでに**全額前納された会員**には振替用紙が入っていません。全額前納なさっている方々は、次の方々です。相沢與一、海道進、小松善雄、佐藤博樹、清山洋子、武田公子、田中直樹、富沢賢治、豊田謙二、中村達、服部良子、藤岡光夫、舟橋尚道、前田信雄、道又健治郎、三塚武男、村上良三、脇田滋

一部前納されている会員は、前納分を差し引いた金額を請求しています。

誤りがありましたら、お知らせ下さい。

本部分校交代のお知らせ

現在の本部分校は今大会をもって一橋大学より、昭和女子大女性文化研究所に移転します。伊藤セツ会員が担当しますので、宜しくお願いします。

これを機会に本部事務の執行体制を見直す計画です。幹事会で審議の上、発表する予定です。

2年間本部を担当しましたが、その間、会員も順調に伸び、900名を突破しました。春の大会と秋の研究大会との歴史的断絶が解消されました。年報に自由投稿欄が設けられました。

さらに、まだ決定はされていませんが、役員選挙を会員全員投票にする改革案が検討中です。学会の運営方法、大会の運営のあり方についても改革案が作られました。できるものから順次実施していくこととなります。年報の大幅改革も進行中です。

事務処理ではお詫びすることが沢山あります。会費の請求ミス、問い合わせの返事が遅い、住所訂正が遅い、等々。ご迷惑をおかけしました。

しかし、この学会は非常にボランティア精神に富んだ運営をしています。幹事にもほとんど食事を出さず、交通費は全く出さない。大会開催校は費用を切りつめ、余れば本部に返金してくれます。本部も印刷費を節約するために、レイアウト済みの原稿で入稿する。こうして黒字決算を生み出しているのです。

もちろん、節約だけでは何にもならない。どんな仕事をするかが肝心です。ここ何期か、わが学会は内部固めに努めてきました。そろそろ外に討って出る時期でしょう。そのためには本部の企画力を高める必要がある。この反省を踏まえ、事務体制も整備が進むことでしょう。次期代表幹事に後事は託すことに致します。2年間のご指導、ご鞭撻有難うございました。

日大大会プログラムの訂正

大会プログラムの発送後、プログラムにいくつか変更がありました。以下の通りです。なお、修正されたプログラムは、大会報告要旨集の目次に収めてあります。要旨集はこのニューズレターに同封されています。

旧	新
労働史分科会 「2. <u>社会福祉史の観点から</u> 」	「2. <u>社会福祉史研究からみた戦後労働問題研究</u> 」
ジェンダー分科会 「2. <u>日本型福祉国家財政とジェンダー</u> 」	「2. <u>日本型福祉国家とジェンダー</u> 」 (「 <u>財政</u> 」をとる)
ワン・ペアレント・ファミリーの家計・生活・意識分科会 コメンテーター以外の論題、報告者を次のように訂正する。	
旧	座長 埋橋孝文(大阪産業大)
1. <u>ワン・ペアレント・ファミリーの家計と家計管理</u>	馬場康彦(日本福祉大)・木村清美(大阪産業大)
2. <u>養育費制度の現状と課題</u>	濱本知寿香(家計経済研究所)
3. <u>ワン・ペアレント・ファミリーの生活世界の内側 - 国際比較を中心にして</u>	埋橋孝文(大阪産業大)
4. <u>家族規範と家族類型</u>	色川卓男(静岡大)」
新	座長 田中裕美子(下関市立大)
1. <u>生活世界の内側</u>	生活意識を中心にして 埋橋孝文(大阪産業大)
2. <u>性別分業の破綻</u>	夫の稼ぎ手役割の問題が妻の生活と意識に及ぼす影響 木村清美(大阪産業大)
3. <u>経済生活</u>	色川卓男(静岡大)・馬場康彦(日本福祉大)
4. <u>養育費受け取りの実態</u>	濱本知寿香((財)家計経済研究所)」
自由論題第1会場	
旧	新
「 <u>神尾京子(家内労働問題研究会)</u> 」	「 <u>家内労働研究会</u> 」(問題をとる)
自由論題第2会場	
旧	新
「2. <u>年金政策の負担・給付システムをめぐる諸論点の検討</u> 」	副題「 - 第3号被保険者問題を事例として」を追加する。
「3. <u>東京都23区における高齢者の経済的地位について - 年金、収入、就業、子との同居を中心に</u> 」	「3. <u>大都市における高齢者の経済的地位について 公的年金、収入、就業、子との同居を中心に</u> 」
「塚原康博(明治大)」	「塚原康博(明治大短大)」
自由論題第3会場	
「2. <u>看護、介護の本質からみた新しい看(介)護職員教育システムの提言</u> 」	「2. <u>看護、介護職員養成政策の問題点と課題</u> 」

自由論題第4会場

「2. 日雇労働者と社会保障
釜ヶ崎における展開と現状から」

「2. 日雇労働者と社会保障
釜ヶ崎における展開と現状」

自由論題第5会場

「2. 1990年代以降におけるアメリカ労資関係
グローバル化（大競争）と情報
ネットワーク化の下での統計と事例の分析」

「2. 1990年代以降のポスト冷戦と情報ネット
ワーク化における労資関係 アメリカ
労資関係を中心として」

安倍フェロシップ奨学研究者募集のお知らせ

国際交流基金日米センター / 米国社会科学研究評議会の安倍プログラム担当、戸田拓哉氏より、安倍フェロシップ奨学研究者募集のニュースが届きましたので、掲載します。

国際交流基金日米センターは米国社会科学研究評議会（SSRC）及び米国学術団体評議会（ACLS）と共同で、安倍フェロシップ奨学研究者を公募します。

安倍フェロシップは個人の調査研究プロジェクトに対する奨学金制度です。その目的は、社会科学と人文科学の分野における高度な政策指向型研究を促進し、日米の研究者間の新しい協働関係とネットワークを形成すること、また、これら研究者から比較研究あるいは国境を越える視点に立った研究への取り組みを引き出していくことです。学者、研究者、また学界以外の各分野の専門家からの申請を歓迎します。申請資格は日米いずれかに研究の拠点を持ち、博士号ないしは専門分野での同等の経験を有していることです。募集人員は15～20名。奨学金支給額は定額方式ではなく申請された研究プロジェクトによって個々に決定されますが、一般に研究費、渡航費、滞在費、および給与と充分が支給されます。支給期間は最長1年です。応募に際しては英文で所定の申請用紙の他に、研究計画書（10ページ相当）を提出していただきます。締め切りは9月1日です。なお、募集要項、申請用紙の請求及びお問い合わせは、下記までご連絡下さい。

安倍フェロシップ・プログラム東京事務所
〒107-6021 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 20階 CGP内
Tel: (03) 5562-3506 Fax: (03) 5562-3504

幹事会記録

日時 3月7日（土） 午後2～5時

場所 一橋大学 高田一夫研究室

出席者 伊藤セツ 遠藤公嗣 加藤佑治 工藤恒夫 佐口和郎 高田一夫 玉井金五 二村一夫 三

富紀敬 出席者確認せよ

議長 高田一夫

議題

報告事項

1. 会員の異動

退会者

矢部 洋三 能勢 一朗 庭田 範秋 布施 好夫 浅田 毅衛 児嶋 正男

大橋 泰二

2. 会費納入状況

納入者 699名（66名増加）

前納者 17名（納入率80.0%）

会員総数（含・名誉会員） 911名

3. 第96回大会（日大経済学部）の準備について

コメンテーターを以下の通り決定した。

1. ホームレス・労働市場の視点から

下田平裕身（日本女子大）

2. 社会保障の視点から

山森 亮（京都大）

3. 地域・家族の視点から

黒田慶子（立命館大）

4. 国際比較の視点から

松丸和夫（中央大）

審議事項

1. 新入会員の承認

竹田 公子 京都府立大社会福祉学部 財政学 浜岡政好、武田宏
606 京都市左京区下鴨半木町 1 075-603-1504

加納 光子 新見女子短大地域福祉学科 社会福祉 岡田藤太郎、大塩まゆみ
718 豊中市服部豊町 2-10-5

木村 清美 大阪産業大経済学部 生活経済論 色川卓男、濱本知寿香
560-0021 豊中市本町 5-1-2-601

村松 加代子 専修大学大学院 労働社会学 加藤佑治、柴田弘捷
165-0022 中野区江古田 2-4-8

笹谷 春美 北海道教育大学 札幌校 社会学、ジェンダー論 伊藤セツ、木本喜美子
002-8071 札幌市北区あいの里 1 条 4 丁目 19-12

2. 同上大会のテーマ別分科会、自由論題の企画、報告者の審議

テーマ別分科会の企画が4件、自由論題が13件寄せられ、審議の結果、すべてを採用した。問題となった点は、(1)共通論題の報告・コメンテーター予定者から自由論題の報告希望が出ていること、(2)第94回大会の自由論題報告者で再び応募している者がいること、の2点であった。

討議の結果、(1)については、もともと自由論題に応募していた方に、コメンテーターを依頼したので、承認する。(2)については、報告者が増えて物理的に困難になるまでは認める、とした。

3. 名誉会員の推薦について

候補者について議論した。決定は多数の幹事・監事が参加する次回に行うこととした。

また、名誉会員推薦の基準について明確化することが望ましいとの議論があり、次回幹事会で議論することにした。

4. 第98回大会テーマについて

「社会政策学における国家と地域」(仮題) というテーマで堀内幹事等でさらに検討を進めることになった。

5. その他

学会賞選考委員会

3月下旬に第1回を開催する予定である(その後、第1回3月24日、第2回4月18日、第3回5月23日それぞれ開催となった)。

業績の寄贈書は5~6名にとどまった。

学会運営プロジェクト・チーム

同じ頃に第1回を開催する予定である(3月28日に実施した)。

年報編集委員会からの報告(上井委員長欠席のため、代表幹事が変わって説明)

年報と叢書の統合に向けて具体策を検討中である。出版社が2社あるが、当方の条件を提示してより有利な方を探りたい。

非定型労働分科会の新設

加藤幹事より、呼びかけ人名簿が提出され、仮承認した。賛同者30名の名簿が提出された時点で、正式発足となる。

分科会の名称変更

「分科会」の名称はテーマ別分科会と紛らわしいので、「部会」と変えたい旨の提案があり、承認された。今後は、常設の研究グループは「部会」の名称を使うことにする。

中部部会の新設

関西部会から中部部会を独立させる計画は、昨年幹事会で話題に上っていたが、世話人に三富幹事が就任することが内定した。中部部会に参加する地域がまだ確定せず、正式提案は次回に持ち越すことになった。

お断り 部会・分科会の活動報告は次号に掲載します。

今号よりA4判に変えました。文書のA4統一になりました。

発行
社 会 政 策 学 会
代表幹事 高 田 一 夫
〒186 東京都国立市中2-1
一橋大学社会学部高田研究室内
電話 & FAX 042-580-8829

E-mail cs00051@srv.cc.hit-u.ac.jp
<http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/nk/gakkaihp.htm>
